

地域医療連携 担当副院長を紹介します



地域医療連携担当
副院長／整形外科部長
高木 治樹

4月より整形外科部長に加え、地域医療連携担当副院長、医療社会事業部長を担当することになりました。常に患者さんの目線に立つことを忘れず、各立場からの役割を担い、お互いに気持ちの良い連携を展開していきたいと考えております。先生方のご指導、ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

新任部長、 新任医師を紹介します



新任部長／脳神経外科部長
波多野 武人

卒業年次／平成3年
専門／脳血管障害の外科、脳血管内治療、頭蓋底外科資格／京都大学医学博士、日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医・評議員、日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医



新任医師／ストレス心療科医師
宿南 憲一

卒業年次／平成元年
資格／精神保健指定医

地域医療連携交流会の開催報告

さる1月25日(火)と2月24日(木)、地域医療連携交流会を開催いたしました。

先生方のおかげをもって盛会に会を終了することができました。最後まで、多くの先生方にご参加いただきましたこと心よりうれしく思います。次回以降も更に充実させた内容で、先生方に満足のいく話題提供が出来るよう努力してまいります。今後も顔の見える連携を趣旨としたこの会にご参加お待ちしております。

鯖江市	1月25日(火)
	サバエ・シティーホテル [55名参加]
福井市	2月24日(木)
	ホテルフジタ福井 [60名参加]

①『肩関節痛とその診断と治療について』	整形外科 柴田弘太郎副部長
②『上半規管裂隙症候群について』	耳鼻咽喉科 石島健部長
①『産婦人科の急性腹症と腹腔鏡下手術 —子宮外妊娠と卵巣腫瘍茎捻転の治療—』	産婦人科 田嶋公久部長
②『上部内視鏡外科手術のup to date』	外科 藤井秀則部長

地域医療連携課

受付時間／平日 8:00～18:30
土曜 8:30～12:30
TEL 0776-36-4110(直通)
FAX 0776-36-0240(専用)



<http://www.fukui-med.jrc.or.jp>
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第38号発行
平成23年4月
福井赤十字病院



Partner

Japanese Red Cross Fukui Hospital

パートナー vol.038

福井赤十字病院連携通信



Topics トピックス

新しい地域医療連携課が スタートいたしました

平素より連携医の先生方には、当院連携業務に対して格別のご協力・ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。

当院中期計画の目標であります「県内一の信頼される地域医療支援病院並びにがん診療連携拠点病院」をスローガンに、高木副院長(地域医療連携担当)の総括のもと、高橋事務副部長(地域医療連携課長)、堀口師長(退院調整担当)、山崎地域医療連携係長および連携課のスタッフ一人ひとりが一丸となり、福井赤十字病院の役割を果たしていくよう、先生方との連携推進に鋭意努めているところです。

当院の地域医療連携室が発足して今年4月で13年が経過しました。これまでの歴史と実績を踏まえつつ、私たちは連携医の先生方からのご意見・ご要望などをいただきながら、地域の患者さんを中心に行きの先生方との協同による効率良く実のある幅広い連携に向けていっそう取り組んでまいる所存です。今後とも引き続き、ご指導・ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。



福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針

- 患者様の権利と意思を尊重し、相互理解に基づく医療を行います。
- 患者様に優しい医療を提供します。
- 医療の安全と質の向上に努めます。
- 地域の保健・福祉・医療機関と連携を進めます。
- 救急医療を充実させ、地域の急性期医療を担います。
- 災害時に積極的な医療救援や救援活動を行います。

PACSと 多面大型モニターによる 合同カンファレンス



放射線科 部長
左合 直

昨年5月に放射線棟の読影室に3面の大型ディスプレイが設置され、キャンサーボードを含めた関連科合同の消化器、呼吸器カンファレンスはこちらで行われるようになりました。従来の電子カルテからビデオプロジェクターによる1面スクリーンの映写に比べて、プレゼンテーション(以下プレゼン)の内容とスピードが向上し、討論の充実と時間の短縮につながっています。また、放射線科医は治療、画像診断、IVRの議論だけでなく、カンファレンスの進行やセッティングのサポートも行っており、その役割も含めて、読影室での合同カンファレンスの様子を伝えます。

《モニターと画面の展開》

52インチ高精細ディスプレイが3面があり、左の横1面に電子カルテ(カルテ内容、検査結果、内視鏡、病理、手術所見や写真)(写真1a)、右の縦2面には右のPACS端末からCT、MR、超音波、一般撮影、核医学などの画像が展開されます(2a)。電子カルテを小テーブル上のリモートのキーボードとマウスで主治医が操作をしてプレゼンを行い(1b)、それに合わせ、放射線科医が右のPACS/レポート端末から画像を展開します(2b)。PACS端末の画像がそのまま展開されるので電子カルテの画像ビューアーと比べ、機能やスピードは格段に優れています。また電子カルテを主治医、PACSを放射線科医とそれぞれが使い慣れた端末で操作を分担することでプレゼン全体がスムーズに行えています。

《PACS、レポートシステムの機能》

PACSには画面に配置した各画像のレイアウトを何通りも保存する機能があり、院内メールや術予定リストなどで表示予定がわかっている例については、担当放射線科医が予め症例に応じて画像のレイアウトをセットしておきます。同時にレポートシステムにもリストが作成されており、これらはスムーズなプレゼンだけでなく、事前の症例の予習、あるいは事後の追跡やレビュー、参加できなかった放射線科医との共有という点でも重要です。

その他、読影室やその周囲にはプレゼン用以外にも電子カルテ、PACS/レポート端末(3)、私物も含めたインターネット接続のPC、プリンタがいくつかあり、カンファレンス中の内容記載、プリント出力、PACS/レポート内の類似例の検索、インターネットや個人のデータベース/電子化書籍などによる文献検索も平行して行える環境です。

科や職種を越えた合同のカンファレンスはがん診療や高度医療だけでなく、一般的な医療の質の向上や教育面からも重要です。一方、カンファレンスの質は参加メンバーの顔ぶれだけでなく、大量の画像やデータの中から適切なものが速やかに表示されることが必要であり、それを実現する為の試みとして当科の読影室で行われているカンファレンスを紹介しました。



写真／呼吸器科、呼吸器外科、放射線科による合同カンファレンス

1a) 電子カルテ

2a) PACSから表示される画像。単純写真、術前、術後のCTが表示されている。
このレイアウトは事前にセットされておりすぐに表示できる。
このようなセットを症例ごとに何通りも登録できる。

1b) 電子カルテを操作し症例のプレゼンを行う主治医。
テーブルのワイヤレスキーボードとマウスで操作する。

2b) 主治医のプレゼンに合わせてPACSから画像表示を操作する放射線科医。
事前のセッティングもこの担当者の仕事。

3) PACS端末で呈示例の別の画像を見ている放射線科医。

4) 室内灯。高輝度のディスプレイなので、部屋は明るいまま見ることができる